平成21年６月26日
総務省統計局

平成20年平均 消費者物価地域差指数の概況

1　地方別の物価水準

平成20年平均消費者物価地域差指数（全国平均＝100）の総合指数（持家の帰属家賃を除く）を地方別にみると，最も高いのは，関東の103.0で，次いで北海道が102.5，近畿が101.5，東海が100.3となっている。また，北陸は全国平均と同じ100.0となっている。

一方，最も低いのは，沖縄の95.3で，次いで九州が96.8，四国が97.5，東北が98.4，中国が99.4となっている。（図）

2　都市階級別の物価水準

都市階級別にみると，大都市が104.5，中都市が100.1，小都市Ａが98.5，小都市Ｂ及び町村が共に97.0となっており，大都市は小都市Ｂや町村に比べ7.7%高くなっている。

3　都道府県庁所在市別の物価水準

都道府県庁所在市別にみると，最も高いのは，東京都区部の110.4で，次いで横浜市が110.2，大阪市が107.0，京都市及び岡山市が共に105.6などとなっている。

一方，最も低いのは，宮崎市の96.5で，次いで那覇市が97.3，秋田市が97.5，前橋市が98.8，佐賀市が99.0などとなっている。

なお，東京都区部は宮崎市に比べ14.4%高くなっている。
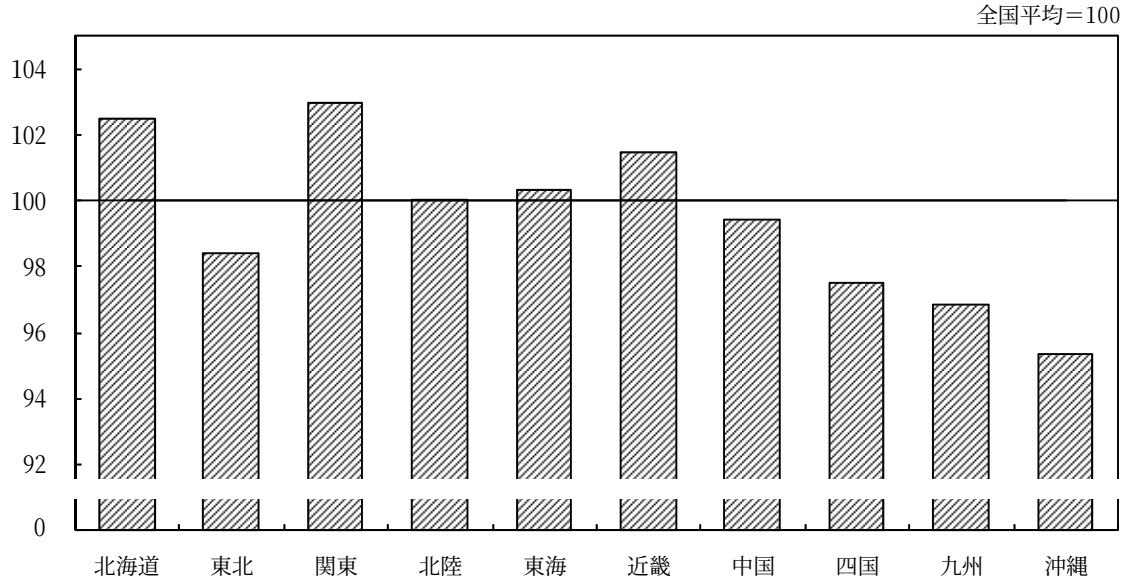
図　地方別消費者物価地域差指数